

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2008年3月)

発表日 2008年4月9日(水)

～水準は低いですが2カ月連続で改善。下げ止まりの兆しも～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の状態判断(方向性)				景気の前向き判断(方向性)				景気の状態判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
07年	1	47.2	45.7	47.3	56.3	50.9	50.6	49.8	55.1	44.4	41.3	47.1	58.3
	2	49.2	47.9	49.8	55.9	52.1	52.3	49.6	55.9	46.8	44.1	49.8	57.4
	3	50.8	49.9	50.9	56.3	51.3	51.6	47.9	56.6	47.8	45.2	50.1	59.2
	4	49.7	48.2	50.4	57.1	51.9	51.4	50.7	57.2	46.8	44.1	49.7	57.9
	5	46.8	46.4	45.9	50.7	50.0	50.0	47.7	55.0	44.0	42.3	44.7	53.4
	6	46.0	45.1	46.2	51.2	48.4	47.9	48.6	50.9	43.9	41.9	46.3	52.0
	7	44.7	42.8	47.4	51.2	46.7	46.0	46.3	52.0	41.5	38.4	45.7	52.0
	8	44.1	43.7	43.1	48.3	46.5	46.1	46.3	49.7	42.1	40.7	43.3	49.1
	9	42.9	41.7	43.5	48.8	46.0	45.8	44.9	49.6	40.2	37.8	43.5	49.1
	10	41.5	41.3	41.0	43.8	43.1	42.8	42.1	46.6	39.8	37.5	43.4	47.4
	11	38.8	38.4	38.8	41.9	38.8	38.4	37.9	43.1	38.4	36.8	40.6	44.4
	12	36.6	36.5	36.5	37.5	37.0	36.4	37.5	39.7	36.4	35.1	38.6	39.7
08年	1	31.8	31.5	31.7	34.1	35.8	35.5	36.1	37.5	31.5	30.3	32.7	37.1
	2	33.6	33.1	34.4	35.0	39.5	39.6	38.6	40.4	31.5	30.0	33.5	37.0
	3	36.9	37.4	36.0	35.5	38.2	38.8	36.1	39.0	34.9	34.8	34.8	36.0

前年差

07年	1	▲ 4.9	▲ 4.8	▲ 4.7	▲ 6.6	▲ 5.5	▲ 5.3	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 3.8	▲ 4.2	▲ 3.3	▲ 2.0
	2	▲ 4.3	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 6.5	▲ 4.5	▲ 4.0	▲ 6.1	▲ 5.1	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 2.5	▲ 3.6
	3	▲ 6.5	▲ 6.1	▲ 6.6	▲ 9.2	▲ 4.9	▲ 4.6	▲ 6.1	▲ 4.7	▲ 5.6	▲ 6.3	▲ 3.8	▲ 5.6
	4	▲ 4.9	▲ 4.9	▲ 4.3	▲ 7.3	▲ 3.1	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 1.9	▲ 3.8	▲ 4.0	▲ 3.2	▲ 3.9
	5	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.7	▲ 8.9	▲ 3.8	▲ 3.6	▲ 4.3	▲ 3.4	▲ 4.2	▲ 3.6	▲ 5.2	▲ 6.0
	6	▲ 3.1	▲ 2.2	▲ 3.9	▲ 7.0	▲ 3.4	▲ 3.4	▲ 2.1	▲ 6.5	▲ 2.4	▲ 1.6	▲ 2.4	▲ 7.3
	7	▲ 3.7	▲ 3.7	▲ 2.7	▲ 6.0	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 2.4	▲ 5.8
	8	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.0	▲ 11.5	▲ 5.0	▲ 4.9	▲ 3.6	▲ 8.7	▲ 5.2	▲ 4.6	▲ 4.3	▲ 10.3
	9	▲ 8.1	▲ 7.5	▲ 7.7	▲ 12.4	▲ 6.8	▲ 6.7	▲ 6.3	▲ 8.4	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 11.8
	10	▲ 9.3	▲ 7.8	▲ 10.2	▲ 16.8	▲ 9.4	▲ 9.1	▲ 9.2	▲ 12.7	▲ 8.0	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 13.8
	11	▲ 10.1	▲ 9.1	▲ 10.8	▲ 14.1	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 10.2	▲ 13.1	▲ 8.0	▲ 6.5	▲ 9.1	▲ 14.6
	12	▲ 12.3	▲ 11.1	▲ 13.7	▲ 17.0	▲ 11.9	▲ 11.5	▲ 12.3	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 8.6	▲ 11.5	▲ 16.3
08年	1	▲ 15.4	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 22.2	▲ 15.1	▲ 15.1	▲ 13.7	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 11.0	▲ 14.4	▲ 21.2
	2	▲ 15.6	▲ 14.8	▲ 15.4	▲ 20.9	▲ 12.6	▲ 12.7	▲ 11.0	▲ 15.5	▲ 15.3	▲ 14.1	▲ 16.3	▲ 20.4
	3	▲ 13.9	▲ 12.5	▲ 14.9	▲ 20.8	▲ 13.1	▲ 12.8	▲ 11.8	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 10.4	▲ 15.3	▲ 23.2

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の状態判断(方向性)								
	DI				前月差				
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		
07年	1	49.1	47.4	50.9	59.0	-1.3	-1.3	0.0	2.0
	2	49.4	48.4	49.7	56.1	0.3	1.0	-1.2	-2.8
	3	47.7	46.5	48.0	54.3	-1.7	-1.9	-1.8	-1.8
	4	47.5	45.9	48.0	54.5	-0.3	-0.6	0.1	0.2
	5	46.3	45.3	46.0	52.3	-1.1	-0.6	-2.0	-2.2
	6	46.2	45.1	46.7	52.0	-0.2	-0.2	0.7	-0.3
	7	45.3	43.9	46.8	51.1	-0.9	-1.2	0.1	-1.0
	8	44.1	43.7	43.9	47.9	-1.2	-0.2	-2.9	-3.2
	9	43.0	42.3	43.2	46.6	-1.2	-1.4	-0.7	-1.2
	10	42.0	42.1	41.3	43.3	-1.0	-0.2	-1.9	-3.4
	11	39.6	39.2	39.3	42.6	-2.4	-2.8	-1.9	-0.7
	12	37.7	37.3	36.8	39.1	-2.0	-1.9	-2.5	-3.4
08年	1	33.1	32.7	34.1	35.9	-4.6	-4.6	-2.7	-3.2
	2	33.7	33.4	34.2	35.0	0.6	0.7	0.1	-1.0
	3	34.6	34.8	33.9	34.1	0.9	1.3	-0.4	-0.8

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ 水準は低いが前月からは改善

3月の景気ウォッチャー調査は、現状判断D I（方向性）が36.9と前月から+3.3ポイント改善した。12ヵ月連続で50を下回ったものの、2ヶ月連続での前月差改善である。先行き判断D Iは38.2と前月から▲1.3ポイント悪化した。なお、季節性を排除するために季節調整をかけた場合には、現状判断D Iは全体で34.6（2月33.7）と上昇、家計動向関連が34.8（2月33.4）、企業動向関連が33.9（2月34.2）、雇用関連が34.1（2月35.0）となる。3月は家計動向関連の上昇に牽引される形になった。

D Iの水準は依然としてかなり低く、ウォッチャーのコメントも弱めのものが圧倒的に多い状況に変化はないのだが、2ヵ月連続で僅かながらも改善していることは事実である。これまでにみられた急激な悪化に歯止めがかかり、下げ止まり感がみられることについては評価して良いだろう。3月は気温が高めで天気にも恵まれたこともあって春物商品に動きが出たことや、改正建築基準法に伴う混乱が徐々に落ち着いてきたこと、これまでに悪材料がある程度出尽くし、追加的な下押し要因が少なかったことなどがD I改善の背景にあると思われる。

なお、これまでD Iの押し下げ要因になってきた主な要因は、原油高、食料品・日用品値上げ、住宅着工急減、の3つである。このうち、住宅着工関連については、着工動向を見る限り、なんとか底を打ったとみてよいだろう。原油高や食料品・日用品値上げについては、4月以降もかなりの品目で値上げが予想されていることから、引き続きマインド悪化要因になると考えられるが、「追加的な押し下げ度合い」という意味では今後徐々に影響は小さくなっていくと予想される。また、気温が上昇して灯油代の負担が減ってきたことも、マインド改善に幾分寄与する可能性があるだろう。D I全体としても、この先一段と悪化していくというよりは、底這いもしくは若干の持ち直しといった展開になる可能性が高いのではないだろうか。水準はかなり低いとはいえ、ようやくマインド動向に下げ止まりの兆しがみられ始めたことは、景気の先行きを予想する上で非常に重要である。

○ 家計部門は若干改善

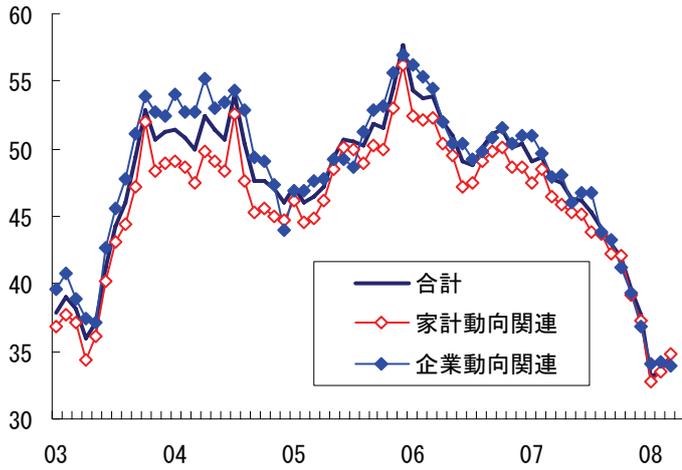
企業動向関連は、2月からわずかに悪化した（季調値、以下同じ）。非製造業は改善したが、製造業の悪化が足を引っ張った。外部環境が厳しくなるなかでは十分な価格転嫁は容易でなく、原材料価格高騰の影響が収益面での下押し要因になっているとのコメントが引き続き多い。もっとも、企業動向関連については、悪化ペースが1月以降緩やかになっており、悪化というよりは底這いに近い。受注量はある程度確保されているとのコメントも散見される。

家計動向関連は前月から小幅改善した。日用品値上げに伴う消費者の節約志向の強まりを指摘する声は依然として多く、特売やポイントサービス日を待っての購入など、少しでも安いものを買うという行動が増えている状況には変化はないが、3月については、温暖な気候が衣料品関連を中心にプラスに作用したようだ。業態別にみると、コンビニエンスストアや乗用車販売で悪化がみられたが、その他は概ね改善している。

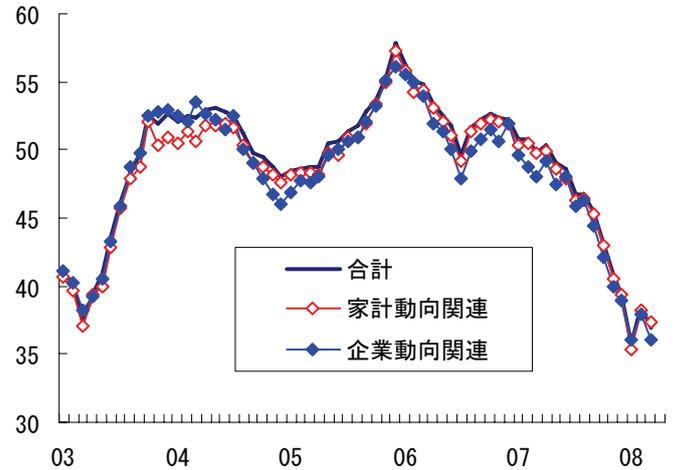
住宅関連のD Iは小幅悪化した。もっとも、悪化幅は小さく、ボトムである1月の水準は上回っている。受注の低迷建材需要の大幅な落ち込みなどが指摘されており、悪影響が残存していることは確かだが、最悪期は脱したとみて良いだろう。先行き、緩やかな改善が予想される。

雇用関連は引き続き悪化した。企業の求人意欲が減退しているとのコメントが多い。先日公表された労働力調査において雇用者数が悪化に転じていたこととも合わせ、先行きの懸念材料である。

景気の現状判断D I（方向性、季調値）



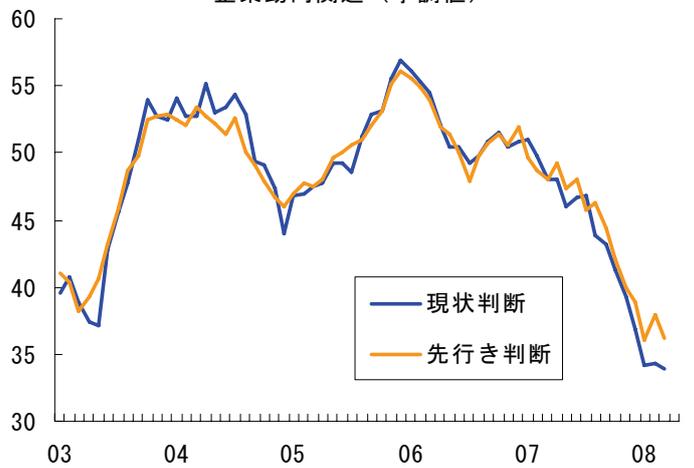
景気の先行き判断D I（方向性、季調値）



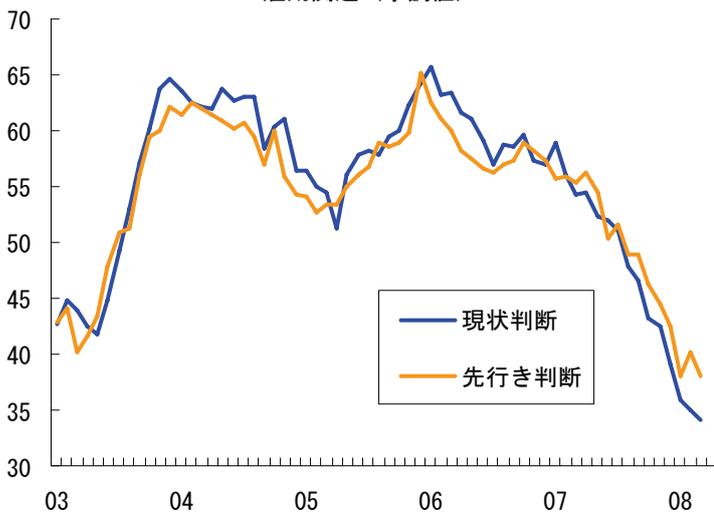
家計動向関連（季調値）



企業動向関連（季調値）



雇用関連（季調値）



住宅関連（季調値）

